

未来の世界のために今実践すること

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎



共に奉仕するR.I.第2650地区の同僚の皆さん、2月は世界理解月間です。ロータリーの四大奉仕部門の一つ、国際奉仕に焦点を合わせる時期です。各クラブは、世界社会奉仕、青少年支援、ロータリー財団の各種補助金などのプログラムを活用して、国際理解を推進する数多くの機会が与えられています。

R.I.第2650地区の世界社会奉仕(WCS)の事業は、WHOの「西大西洋地域(WHO/WPRO)ポリオ根絶京都会議」でWPROでのポリオ根絶宣言を受け、今年(WPRO)でのアフターフォローを続けながら、WHO/SEARO(東南アジア地域)でのポリオ根絶を目指しています。2002年1月9日より17日までミャンマーでのポリオワクチン投与と、ミャンマーのヘホ・ウカタン村での小学校校舎新築の落成式に、私を団長に58名のロータリアンとローターアクトと共に参加します。寄付するだけの奉仕ではなく、「自ら汗を流してこそ本当の意味での奉仕活動である」という考えに基づき、R.I.第2650地区では積極的にこの事業を継続する努力をしております。

アフガニスタンからのテレビ報道でご承知のように、世界には次世代を担う子ども達の中に、病気で苦しむ子ども達、地雷で足を失った子ども達、飢餓に苦しむ子ども達など、恵まれない多くの人々がいます。ロータリーが世界の安全と、相互理解、平和の達成のために何ができるか、それはロータリアン一人ひとりの意識と努力にかかっています。世界の恵まれない人々のために、今、私達のできることを行わなければなりません。

リチャードD.King R.I.会長は、『世界は一つ』という挨拶の中で次のように熱いメッセージを我々に送っておられます。

「ロータリーは世の中を変えられます。ロータリーは、私達のかげがえのない地球の未来のためになくしてはならない存在です。かつて、ロータリアンとロータリークラブがこれほど必要とされたことはありませんでした。21世紀において、世界のあらゆる所に住む人々の運命を変えられるのは、世界で最も高尚で、有能な心をもったロータリアンの素晴らしい組織のネットワークなのです。ロータリーを世界の隅々にまで行き渡らせ、より多くの人々に親しんでもらうための中核事業が『ロータリーグローバルクエスト』なのです。未来への投資として、ロータリー財団への貢献と、会員増強推進の2つを強調します。毎年100ドルの財団への寄付をすることは、世界平和に貢献する具体的な行い입니다。ロータリアンが増えれば増えるほど、平和も膨らんでいくのです。まさに世界は一つなのです。そして、私達は世界をより良いものにしていかなければなりません。今日、明日、そして常に……

『Mankind is our business - 人類が私達の仕事 - 』です。」

R.I.会長のメッセージに応えて、国際社会の求めている奉仕の実践に努めようではありませんか。

昨年をイメージする漢字として、清水寺の森 清範貫主が「戦」という字を揮毫されました。「テロ」との戦い、民族間、宗教上の戦いなど、21世紀幕明けの年は、残念ながら人類がいがいみあい、戦う一年でありました。今年「和」という漢字を書いて頂ける世界になるように、「和」の心を持って接したいと思えます。

ロータリーとは、寛容と善意、そして慈悲の心であります。さらに癒しの心が現実のロータリー活動に欠かせないものと考えます。小谷隆一元R.I.理事も、「ロータリアンは誇りを持たなければならない。ただし、すべてに謙虚であるべきだ」と教えておられます。自分の今ある状況に感謝の念を持って、相手を思うこと、相手の立場で考えることが、国際理解と協調の大前提です。ロータリアン一人ひとりが「世界理解」「世界平和」のために自分のできることを実行し、その小さな積み重ねが、大きな成果を生むものと確信しております。この月間を楽しみながら奉仕の実践に励みましょう。このことが「Mankind is our business」なのです。

- 2月是世界理解月間 -

帰国した学生達の驚く成長

地区国際青少年交換委員会 委員長

松山 隆

(奈良RC)



国際ロータリーで青少年交換プログラムが初めて提案されたのが1929年、実際に交換が始まったのが1939年で、およそ60数年の歴史があります。わが国では1961年に初めての交換が行われ、40年余りの経過があります。

当2650地区が、初めて交換学生を派遣・受入したのが1971年でした。それより31年の歳月が過ぎ、現在の総派遣学生数の合計が506名、受入学生数は459名になっており、2002-2003年度中には、派遣・受入を合わせると1000名を越す数になります。当然、この数は、全国の31地区の中でも群を抜いております。交換国も15ヶ国（現在は12ヶ国）を数えます。これもひとえに、青少年交換プログラムを支えて頂いた地区会員、クラブ、そして今までの地区委員の諸先輩のお陰と感謝申し上げます。このプログラムに参加経験のあるクラブも、地区内全クラブのおよそ78%、71クラブに上っております。

国際大会でのR.I.会長のアドレスでは、毎年決まったようにこの青少年交換プログラムが、ロータリープログラムの中でも最も成果を挙げているプログラムの一つだと賞賛されます。しかし、昨今の世界の現状は、少し様相が違ってきております。今、国際青少年交換の抱える一番の問題は、危機管理にあります。2001年9月11日におけるテロ事件発生以後、この危機管理が特に表面に出てきました。世界には日本国内では理解できない危機が蔓延しております。危機管理は当然重要な要素であります。しかし、これがもとで世界に羽ばたこうとしている学生の夢を奪い取っては意味がありません。私共委員会も世界の交換地区と緻密な連絡を取り合ってこの危機管理に努め、学生達の安全に万全を期しています。

別の面で我地区の問題として挙げられるのは、青少年交換プログラムに応募する学生の数が年々減ってきているということです。それは、昨今の学生の気質が変わってきたからと一概には言えなくなっています。確かに最近の高校生に交換学生の応募を問いかけると、友達と離れたくないとか、何で苦労して外国まで行かなあかんのかという、消極的な答えが返ってきます。何故か携帯電話の普及につれてこの傾向が大きくなってきているように感じます。しかし、まだまだ、語学を習得したい、活躍の場を海外に求めたい、外国にたくさんの友達を作りたいと夢を抱いている学生も多々いるのも事実です。が、応募学生が減ってきている一番大きな原因は、学生を推薦するスポンサークラブ、そして受入れるホストクラブが減少してきているのが一番大きいと考えます。派遣学生を一人出すと、クラブは多大な費用を算出しなければなりません。また、受入学生のホストファミリーのなり手もなかなか見つからず、受入学生の学校を見つけるのも困難になってきました。長年継続しているクラブほどこの傾向がみられます。しかし、帰国してきた学生達の驚くほどの成長ぶり、また受入学生達との帰国後も続く温かい交流は、得がたい経験です。この感動を是非熱ある学生達に体験させてやって下さい。初めてのクラブも、現在休眠しておられるクラブも、どうかこの青少年交換プログラムに参加して若人の夢を叶えてやって下さい。また、現在参加頂いているクラブも、継続して頂きたいと切にお願い致します。どうぞ青少年交換プログラムを楽しんで下さい。

ENJOY YOUTH EXCHANGE PROGRAM!

ミャンマーミッション - 子供達から笑顔をもたらしてきました -

地区国際担当 幹事 小西 清茂 (京都南RC)

R.I.2650地区2001～2002年度WCS委員会は、1年余に亘る事前調査・事前折衝を経て、WHO(SEARO-南東アジア地域事務所)・ミャンマー保健省(MOH)の全面的な協力の下に、2002年1月13日、中部マンダレー管区近郊のサガイン地区において実施されたNIDS(国内一斉投与日)に3班に分かれて、西村二郎ガバナー・宮崎茂和パストガバナー・岡村吾郎ガバナーエレクト御夫妻の御参加の下に、ロータリアン49名・ローターアクト2名・家族・一般7名、総勢58名が参加し、全員が5才以下の子供達にポリオワクチンを投与した。

前日夕刻、マンダレーにてSEARO遠田医務官やMOHの担当者からレクチャーを受け、13日早朝より盛大な式典があり、管区司令官・ガバナーと順次投与し、サガイン地区中央会場を経て3つの村での投与に赴いた。

どの会場も子供達を抱いた母親達が殺到し、その真剣な態度に感銘を受けた。

翌14日朝、南シャン地区ウタカン村での小学校贈呈式に参加した。4教室の新築・イベントホールの新築・トイレの新築・井戸の新設等である。事前に贈っておいた揃いのロンジン(緑色)を着、薄化粧をした全校生徒を中心に村人全員に出迎えられた。なかには手を合わせて感謝の気持ちを表わす母親達も多数おられたことが印象的であ



ポリオワクチンを投与されるガバナー

であった。パオ族の踊りや音楽での歓迎、村人達の手作りの料理に舌づつみをうち、子供達の笑顔に送られて村を後にした。ロータリアン一人ひとりの善意が、生かされていたことを実感するミッションであった。

最後の15日はヤンゴンでの日本人墓地での合同慰霊祭に参加した。4人のロータリアン(僧職)による厳粛な読経や、ガバナーによる追悼文の朗読に、全員が先人の御苦勞に涙し、ミャンマーミッションを締めくくった。



南シャン地区ウタカン村に小学校贈呈



あいさつされる松原地区世界社会奉仕委員長

財団国際親善奨学生オリエンテーションおよび帰国報告会について

地区財団奨学金・財団学友委員会 委員長 **中野 種樹** (京都西山RC)

毎年1月、恒例となりました次年度に出発する奨学生の第1回オリエンテーションと、今年度までに帰国した奨学生の帰国報告会を、1月19日(土)にリーガロイヤルホテル京都で開催いたしました。例年のごとく午前中オリエンテーションを、午後に帰国報告会を行いました。

2002-2003年度奨学金受領予定者オリエンテーション

今年の目標は、第一にロータリアンと奨学生とが親しくしていただくこと(初顔合わせの方も中にはおられました)とし、留学前、留学中、帰国後もお互いにコンタクトを取り合ってくださいを確認しました。第二には財団学友のオリエンテーションへの積極的な参加です。今年はいつもとより多くの先輩財団学友が参加してもらいましたので、留学国別にグループ分けをし、先輩学友と今年度出発予定の奨学金受領予定者との話し合いの時間を設けました。

2001-2002年度財団奨学生帰国報告会

ご来賓に公文財団増進委員長はじめ、多くの財団増進委員会委員の方々に参加をしていただきました。午前中のオリエンテーション参加者に加え、ほとんどの地区の各クラブから財団委員長様にご出席いただきました。今年もすばらしい成果を発表してもらい、あらためて財団学友は、財団増進の有力なスポークスマンだと再認識しました。

当日発表者

1998-99年度奨学生/森晶子(守山RC)、岡一太郎(福知山RC)、佐伯千夏(京都桂川RC)、1999-2000年度奨学生/山形孝志(京都洛中RC)、福井貴子(びわ湖八幡RC)、2000-2001年度奨学生/浦西義之(奈良RC)、高橋亜紀(京都洛北RC)、白石 匠(彦根RC)、上山益己(京都西北RC)、ゲストスピーカー 2001-2002年度在日財団国際親善奨学生コウチョウホウ(台湾、彦根RCホスト)



情熱の国スペイン バルセロナ世界大会への御誘い

地区国際交流委員会 委員 山本 和秀 (京都山城RC)

バルセロナ世界大会の登録はもう済まされたでしょうか？

当委員会では、世界大会に一人でも多く参加していただけるように事前に現地の情報収集をすることに致しました。ここに、そのレポートを報告させていただきます。

私は11月上旬に、バルセロナ・コンベンション・タスク・フォースメンバーの重田政信、田中作次両パストガバナーに、私がJulio Sorjus氏(バルセロナ世界大会国内実行委員長、元R.I.理事)にお目にかかるようにご紹介を賜りました。

12月4日、関西国際空港からKLMオランダ航空で約12時間、アムステルダムに到着。トランジットに約2時間。入国審査といってもパスポートとフライトチケットを見せるだけの簡単なことでした。入国カードのシステムはありませんでした。アムステルダムからバルセロナまで約2時間。今、ヨーロッパでは国境を無くそうという考えがあるため、バルセロナでも入国は簡単なものでした。ですから、アムステルダムからバルセロナへは国内線のような雰囲気でした。乗客数はアメリカの同時多発テロの関係か、30パーセント程度でした。私は座席と座席の間のアームを上げて4人分の席に寝られました。

バルセロナ着は12月4日18:35。Ms. Laura Cores(27才で美人のスペイン人で、3代続いたロータリアン)が迎えに来てくれました。彼女の車でMr. Julioのおられる世界大会実行委員会事務所へ直行。Mr. Julioの第一印象は、彼の眼差しが私を心から歓迎してくれていることが分かることでした。彼から日本のロータリアンにメッセージが2点あります。

第1点 日本は古くからの国で伝統のある文化があります。しかし、スペインもローマ時代よりも古い国で独特の文化があります。例えば、音楽・フラメンコ・食べ物等。そういったものを十分に楽しんで下さい。また、最近日本の企業のコマーシャルでとみに有名になっているガウディの建物もしっかり見て下さい。

第2点 スペインの治安は悪い、と言う人がいます。しかし、その悪さはロンドンやパリと変わらないと考えて下さい。自分の荷物を放置するようなことをしなければ大丈夫です。その上、世界大会の期間は、特別な警戒体制を考えていますので安心して下さい。とのことでした。

昼食にハンバーガーとコーラをカフェテラスで食べました(約450円)。適度な塩味がして、おいしいのです。約10分程太陽に当たったのですが、日差しが強く顔がほてってきました。6月ですと日差しはもっときつくなりますが気温は25度程度とのこと。

グラシア通を歩き、カタルーニャ広場、ランブランス通へ。東洋の夢をはせたコロンプスの塔。50メートルの高さですので、地上から彼を見上げると、バックは紺碧の青い空。「あー、これがスペインだ!」と実感できました。彼の右手はアメリカを指しているそうです。この港から彼は出港しました、と言われ海を見ると綺麗でした。日本なら残念ながら油やゴミが浮いているでしょうが、そんな物は全く無く、且つ透明度も高いように感じました。

絵画に音痴な私ですが、ピカソ美術館ではピカソの人生とともに変わっていく画法・画風に興味を感じました。

サグラダ・ファミリア聖堂に行きました。1882年にビリャール氏により着工されたものです。完成はあと100年とも200年とも言われています。堂の上迄200ペセタ(当時100ペセタ=75円くらい)でエレベーターで行けます。そこから徒歩1分で眺望のよい踊り場に行けます。しかし、細い通路を約110メートルの高さを意識しながら歩くのはちょっと勇気がいりました。

今からでも国際大会は間に合います。太陽と空と海、人なつっこいスペインの人達と友情を分かち合いましょう。さあー、バルセロナまで御一緒しませんか!



第1回地区委員長連絡会議

2002-2003年度地区幹事長予定者 **松岡 泰夫** (奈良RC)

2002-2003年度第1回地区委員長連絡会議が1月20日(日)奈良県新公会堂で開催されました。西村ガバナー、岡村ガバナーエレクト、次年度地区委員長予定者の出席ではじまりました。西村ガバナーはご挨拶で、奈良の地にゆかりのあります聖徳太子の話を出され、「和をもって貴しとなす」という言葉を引用、和の精神でロータリー活動をすることが最も大切であるとされました。委員長同志が親睦を深め、十分な連絡と情報の交換をしてほしいと話されました。

岡村ガバナーエレクトは、本年が第一回目となるガバナー補佐の増田善宏(福井RC)、石田喜之(大津RC)、寿栄松憲昭(京都RC)、森泰健(福知山RC)、吉村好司(京都山城RC)、南野寛二(橿原RC)の各氏を紹介されました。

岡村ガバナーエレクトは次年度R.I.ピチャイ・ラタクル会長のテーマが発表されていないことで、R.I.2650地区の重点項目として 会員増強、 国際奉仕、 社会奉仕に力点を置くと述べられました。特に国際奉仕に於いてはポリオ撲滅運動が終わりに近づき、次の事業としてカンボジアでの地雷除去による難民救済事業の実行に、熱意のこもった発言がありました。

地区委員長予定者より、抱負や意見の発表があり、幹事長、地区資金委員長予定者から予算の見通しと各委員会への予算割当の発表がされました。地区委員長連絡会議は3月30日(土)に決定しました。



岡村ガバナーエレクト アナハイム国際協議会へ

2002-2003年度 総務幹事予定者 **城田 全康** (奈良RC)

岡村吾郎ガバナーエレクトは、次年度ガバナーとしての研修のため、1月27日(日)午後5時30分発のJAL060便で、米国に向けて、奥様と共に関西国際空港を出発されました。

近鉄奈良駅前の関空行きのバス停には、福井正典ガバナーノミニー、駒重則京都山城RC会長をはじめ、多数の見送りを受け、関空まで同行の中野重宏バストガバナーに松岡泰夫次年度幹事長予定者ほか、エレクト事務所の面々と共に出発されました。関空には山崎バストガバナーも駆けつけて頂き、岡村ガバナーエレクトは見送りの方々と固い握手を交わされ、アナハイムに向かわれました。



京都市内22RC共同事業

環境、資源問題の標語 三作品が選ばれる

担当クラブ 京都RC

京都市民への環境、資源問題の意識啓蒙運動並びにロータリーに対する公共的イメージの高揚を目的にした標語募集を昨年12月1日から12月末まで実施したところ多数の応募があった。

京都市内22RC共同事業の第1回として行われたもので、47通もの力作が22RC各クラブから寄せられ、1月25日(金)午後2時よりガバナー事務所にて西村ガバナー、本田パストガバナー(地区社会奉仕諮問委員)、城守地区環境保全委員長により慎重に審査された結果3作品が選定された。

これにより、2月上旬より3ヶ月間、第一席作品が京都市営バス側面に大型看板タイアップ広告と、第二席作品がヤサカタクシー、洛東タクシーおよびホテルハイヤーの後部ウィンドパネル広告にて市民にアピールすることとなった。今回選ばれた作品は、下記の3作品です。

呼吸する地球を守ろう 次世代の(京都南RC 中川博補君作)
 ゴミひとつ 拾う心が 環境保全(京都西RC 栗原伸治君作)
 限りある 地球資源を 大切に(京都伏見RC 岸田進君作)



文庫通信

地区大会の講演とシンポジウムから

| | | | | |
|---------------------------|-----------------------------|--------|------|-----|
| 「歴史を直視し学ぶ」 | 辺見じゅん 作家・歌人 | D.2710 | 2001 | 8頁 |
| 「青少年非行の実態とその予防対策など」 | 佐藤道夫 札幌高検元検事長 | D.2810 | 2001 | 2頁 |
| 「21世紀 日本のアイデンティティー」 | 大宅映子 評論家 / ノーデス・ハンソン タレント 他 | D.2660 | 2001 | 17頁 |
| 「人はどこから来て どこへ行くのか」 | 河合雅雄 兵庫県立「人と自然の博物館」館長 | D.2680 | 2001 | 7頁 |
| 「21世紀 日本経済の新生に向けて」 | 樋口廣太郎 アサヒビール(株)名誉会長 | D.2680 | 2001 | 9頁 |
| 「21世紀の子供達に贈るメッセージ」 | 小川美也子 ミュージカル演出家 | D.2670 | 2001 | 7頁 |
| 「死ぬに易く、生きるに難い 21世紀のサバイバル」 | 森村誠一 作家 | D.2570 | 2001 | 2頁 |
| 「自然の中で見えてきたこと」 | 高木美保 女優 | D.2550 | 2001 | 4頁 |

[申込先：ロータリー文庫]

〒105-0011

東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7階 TEL (03) 3433-6456・FAX (03) 3459-7506

<http://www.rotary-bunko.gr.jp>

クラブだより

カンボディアの地雷除去活動支援

国際奉仕委員長 嵯峨 法夫
(京都洛西RC)

去る12月4日(火)～6日(木)、当クラブ大野会長、私、小山、高木会員とオブザーバーとして山崎直前ガバナーの5名でCMAC (Cambodian Mine Action Center) 本部を訪れ、MOU (覚え書) を交わし、地雷除去活動の支援金8,000ドルをラタナ副長官及び16名の幹部に手渡してまいりました。



CMACとは、カンボディア政府の地雷除去専門機関です。ご承知のとおり長い戦火のため現在でも400万～500万個の地雷、不発弾が埋没しているということです。住民は日々地雷の恐怖におびえ、遊び盛りの子供に危険があることや、耕作も

ままならない状況です。



現経済下では、各国政府やNGOをはじめとする海外援助に85%を頼っております。地雷除去活動に多種の機械が導入され

ているとはいえ、ほとんどが手作業によるものであり、40度を超える悪環境下、作業中のCMAC隊員が蚊に刺され、年間14～5人がマラリアにかかっているということで要請があり、2,000名分の蚊の予防薬購入資金を支援してまいりました。

多くの隊員に会いましたが、使命を語る若者達の一途な瞳の輝きの中にカンボディアの明るい未



来を見ることができました。

次に、カンボディア大使館を表敬訪問し、小川郷太郎全権大使に面会、千宗室財団トラスティ(元R.I.理事)の親書を手渡し、また、大使より返書を預かってまいりました。

今回は、我々1クラブとしての小さな支援活動でしたが、これを機に地区、日本、そして全世界が追随していただけることを心より願うものでございます。

介護老人福祉施設「愛全園」の年忘れ会に合唱団出演

ロータリー情報委員長 田中 文夫
(福井南RC)

介護老人福祉施設「愛全園」の年忘れ会(2001.12.9(日))、福井南ロータリークラブのダンディ合唱団が出演致しました。

毎年訪問させて頂いているので、いつのまにかお年寄りの方とも仲良くなり、全員が仲良く大合唱致しました。歌うことは健康にも良く、喜ばれています。特に「二人は若い」とか「籠の鳥」などは、昔を偲ばれるのか目を細めて聞いておられるお年寄りもございました。

「また来てください」と嬉しい言葉がけを頂き胸を熱く致しました。とても、晴れ晴れとした一日でした。



ガバナー表敬訪問

2001年12月7日(金) 亀岡中央ロータリークラブ



会長 渡邊正平・幹事 楠 滋夫

渡邊会長のもと「互いに学び進んで行動を！」をテーマに、誠実なクラブ運営がなされ、第3組I.M.のホストクラブとして大成功に終わられた。会員相互の信頼関係も強く、ご発展が楽しいなクラブと拝見しました。(片岡宏二記)

2001年12月11日(火) 滋賀湖北ロータリークラブ



会長 前畑 稔・幹事 横井伸敏

前畑稔会長は“大きな心、豊かな心で奉仕の輪を広げよう”と力説された。会員34名と少人数のクラブで、会員増強と退会防止に苦労されておられる。会員が一丸となってクラブを何かと活性化しようとされ、会員の方々の真剣な姿を目の当たりにでき、確かな手応えを感じ得た、素敵な公式訪問となりました。(西村信行記)

2001年12月13日(木)・14日(金) 京都モーニングロータリークラブ



会長 細井久男・幹事 坂田基禎

地区に新風を吹き込み、職業奉仕を大切にしつつロータリー活動に邁進されている若々しい存在感あるクラブ。細井会長を始め全会員が創立5周年に向け、一丸となり力強く進んでおられる活動を頼もしく拝見いたしました。(赤澤一博記)

2001年12月18日(火) 福井フェニックスロータリークラブ



会長 西村啓治・幹事 武田照寧

クラブの運営方法を2~3の関連委員会で一つにまとめて統轄委員会としてスムーズな活動を実施されていた点が特徴的でした。福井市少年サッカー交流会支援や、青少年スキー大会の企画をするなど、青少年に対する積極的な姿勢が印象に残りました。貴クラブの今後益々のご発展をお祈りいたします。(辻 建而記)

2001年12月19日(水) 鯖江北ロータリークラブ



会長 山口君夫・幹事 渡辺秀輝

山口君夫会長のもと、大変纏まりがあり、ロータリー活動に積極的に取り組んでおられる素晴らしいクラブ。昨年度末に会員数が減少したことに対し、会員増強に力を注がれ、その成果を着々と上げられておられ、早く新入会員の顔と名前を覚える工夫をされていた点が印象的でした。(辻 建而記)

ガバナー表敬訪問

2001年12月20日(木) 京都南ロータリークラブ



会長 岡田祐雄・幹事 長谷川茂

ガバナーのホームクラブ。岡田会長始め180名もの出席。記念撮影は圧巻。クラブ協議会にも100名が出席し、公式訪問の掉尾を飾りました。千宗室R.I.財団トラスティの特別出席には、ガバナーも大感激。年度の前半を終え、地区大会の成功を誓い合いました。

(小林哲夫 記)

2001～2002年度 ガバナー公式訪問終了のご報告と御礼

昨年7月5日彦根ロータリークラブを皮切りに、12月20日京都南ロータリークラブを最終として、地区、91全クラブの公式訪問を無事終了することができました。私の人生のなかでかけがえのない思い出となりました。

会員の皆様のお陰であったと心より感謝し、御礼申し上げます。

各クラブにおかれましては、なお一層意義ある奉仕活動をされますことお祈り申し上げます。

ガバナー 西村二郎

2002-2003年度版

全日本ロータリークラブ会員名簿・手帳ご予約受付中

全日本ロータリークラブ会員名簿

新年度版の会員名簿は、表紙・本文ともにデザインを一新しました。各クラブの事務所住所・電話番号、例会場と例会の曜日・時間をはじめとする、ロータリークラブの情報、また、会員の事業所ならびに自宅の住所・電話番号など、ロータリアンに必要な資料を満載しています。クラブのEメールアドレス・ホームページURLを新たに追加、時代のニーズも取り入れました。なお、2003-2004年度版は、CD-ROM版で発行することになりました。印刷物でご利用の方は、2002-2003年度版をお忘れなくお申込みください。



1組 10,000円(消費税・送料別) 8月下旬出来上がり予定

ロータリー手帳



ロータリー活動に役立てていただけるようロータリー年度で製作。各地のガバナー名、ガバナー事務所の住所、電話・ファクス番号、Eメールアドレス、地区大会の予定などを掲載しています。『ロータリーの友』9・3月号に挿入されている「例会一覧表」は、切り取って、『ロータリー手帳』に入れて持ち歩けます。なお、付録のロータリークラブ定款・細則は、R.I.からのお申し出により中止しました。

1部 600円(消費税・送料別) 5月下旬出来上がり予定

2月1日付で、各クラブにご案内状をお送りいたしました。お申し込みは、クラブ事務局を通じて、ロータリーの友事務所までお願いいたします。

未来への発信

社交クラブにとどまらず



檀原RC 奥田 愛造

入会して8年目を迎えましたが、この間出席率100%ではありません。正直いって例会出席が億劫になり、ロータリーをこのまま続けられるだろうかと思った時期もありましたが、親睦及び委員会活動での人々との交流で視野が広がったこと、社会奉仕・国際奉仕活動における心の充実感等の魅力から退会しないでいられたと思います。

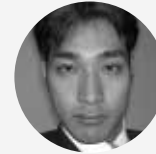
これからのロータリーを考えるにあたり、今一度ロータリーの基本に戻ることが必要ではないかと思えます。入会時に交付された、「ロータリーの入門書」にはロータリーの基本理念が語られていると思えます。すなわちロータリーは、親睦により会員相互の信頼と友情を基として、会員の職業奉仕を通じよりよい社会を創り、平和な世界を築くために貢献することを目的とした団体であるということです。

新世紀に入り世界的には国際競争の激化、地球環境の悪化、食糧難、我が日本では不況の長期化、少子高齢化、青少年犯罪の増加等、大変革を遂げなければ生き残れない時代を迎えています。

この厳しい環境のなか、ロータリーも基本理念を踏まえて時代の変化に対応した行動で進まなければ、その存在意義を問われることになるのではないのでしょうか。

単なる親睦の社交クラブにとどまらず、ロータリアン一人ひとりが、まず身近な地域社会への心からの奉仕の理想を実現していくことが大切だと思えます。

奉仕と自らの自己鍛錬



RAC代表ノミネー 京都西南RC 宮脇 基良

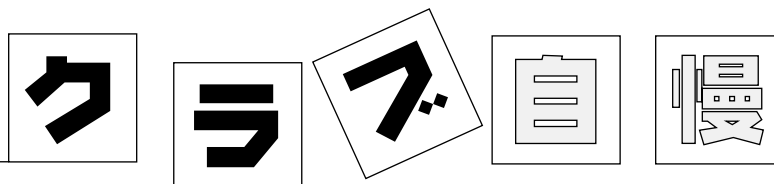
ローターアクトに入会させていただいて以来、様々な活動を行って参りましたが、痛感し、また難しいと思いますのは奉仕が自己満足や独りよがりであってはならず、相手のニーズにあったものでなくてはならないということです。

それに加えて、すべてのローターアクトの活動は自分自身に変化と成長をもたらすものでなくてはならず、成長した自分をもって更に社会に何らかのアプローチを行う、DNAの二重螺旋のように、自分と社会とが密接につながったまま高まっていく姿が理想であると考えます。

奉仕活動の最中、「こういうことを考えておられるのか」とか「こういうこともあるのか」という刺激を皆様もお受けになられたことがあるのではないのでしょうか。

昨今、若者の問題がクローズアップされております。青少年の犯罪はどんどん低年齢化し、信じられないような事件も起こっています。また、若者の心の病などもとりざたされております。ロータリアンだから、ローターアクトだから、自分たちは関わりがないと考えるのは早計だと考えます。同じ社会を構成する者として総体的に関わっていく必要があるでしょう。

私たちローターアクトは、今後とも皆様に与えていただいた機会と場を最大限有効に活用し、社会への奉仕と自らの自己鍛錬に励んでいきたいと考えております。今後とも御指導、御協力の程よろしく願いいたします。



エンジョイディ (山椒は小つぶでも)

名井 得郎 (京都嵯峨野RC)

我が京都嵯峨野ロータリークラブは最高時55名のメンバーを持ちロータリークラブとして活動してきましたが、この2年の間に25名に減少するという大変きびしい現状に直面しました。そのためすべての面で自分達のクラブの力量の中で、新しい価値観と会運営方法を再考する必要性に迫られております。

その意味で本年度を再考する年度と位置づけしております。そして会員増強に努力する中で、現実の少人数のクラブとして前向きに考え、嵯峨野クラブは少人数でこそできる中身の濃い親睦をはかり、家族的で楽しいクラブライフが計れるという利点を、本年度はおおいに生かしていこうと「エンジョイディ」という例会を年間5回持つことにしました。すでに2回行いましたが、大成功をおさめております。

例会場である京都全日空ホテルの施設をフルに利用させていただき、まず1回目は例会をバイキング形式でビジターも含め親睦中心に「エンジョイディ」を行いました。2回目はホテル内の一般レストラン「コージナ」で例会を行い、各自オーダーを取ってもらいながら、ワインと共にビジターのみなさんと「エンジョイディ」を楽しんでもらいました。

次回はホテルのメインバーで例会を行う予定で、企画準備を進めております。どんな楽しい例会になるか、全員期待にその日を待っております。ビジターの方々にも大変好評で、嵯峨野クラブの「エンジョイディ」をたのしみにしているの方々もでき、少人数のクラブならではの企画にメンバー一同楽しんでおります。「エンジョイディ」が、クラブ自慢の一つになってきております。しかしこのことに止まらずに、少しでも会員増強ができればと全員が頑張っております。



おもしろいパソコン同好会

杉田 博 (大和高田RC)

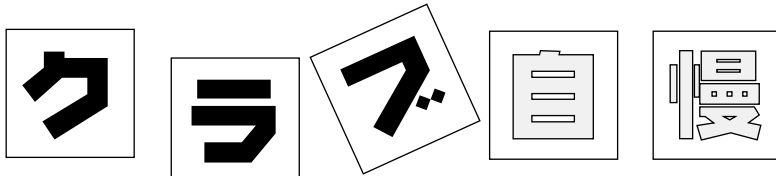
クラブでは地区のインターネット委員会発足に刺激され、パソコンによる事務のOA化を進めております。21世紀、老若男女がパソコンを使うことが常識となるでしょう。

昨年の暮れ「使ってその便利さを発見してもらおう」と同好会が発足しました。幸い幹事がパソコンスクールを営んでいたもので、講習会もすぐに開催できました。20名程度が文字入力から文書作成、インターネット、Eメール等、15時間程ワイワイ、ガヤガヤと口数の多いロータリアンが助け合いながら週1回ずつ勉強しました。

本年度はインターネット委員会ができ、クラブではホームページの作成。会員は画像や写真などのレタッチを、技能に応じてSTEP BY STEPで学んでおります。飽きずにパソコンに向かっている姿は子供のようにです。会員全員が情報収集・伝達をスムーズにできることが今もっての目的です。委員会では現在38人の会員宅へ、メールでロータリーのことやパソコンの役立つニュースを配信し、意見交換(一方通行もある?)を行っております。

遊び、仕事にもっと使ってみましょう。チャットでの例会もあって欲しいよ。





自由な雰囲気のクラブ

田岡 久雄（京都伏見RC）

日本には数多くのロータリークラブがありますが、一般的にいうとパスト会長やパストガバナーといった長老がクラブ内で幅を利かせ、若い会員は小さくなっているという構図が多いようです。

ところが、京都伏見ロータリークラブでは、会長任期が終わった会員は何か問題が起こったり相談を受けたときに参考意見を述べることはあっても、どちらかという引っ込み気味で、クラブの運営も中核から若手中心という、こだわりの少ない面白いクラブです。

メイクアップにお越しになったことのある方は、もうお気付きだと思いますが、例会に出席する会員の服装も、祇園祭のころにはお祭りのハッピー姿の会員あり、Tシャツのまま汗を拭きながら飛び込んでくる会員ありといった具合で、どこかのクラブのように「スーツにネクタイに着替えないと例会に出られない」というような堅苦しさはなく、「今ならまだ間に合うから...」と、普段着のままでも気軽に例会を楽しめる雰囲気を持っています。

こういった自由な雰囲気のためか、会員数が大幅に減少し続けるクラブが多い昨今にもかかわらず、ずっと百人台を継続し続けています。

例会場は京都駅ビルのホテル・グランヴィア京都。京都観光やご旅行姿のまま例会にご出席になれますから、機会があればぜひ京都伏見ロータリークラブの例会にもお立ち寄りください。金曜日12:30です。



「クラブ同好会」の発足について

羽川 幸賢（檀原中央RC）

我々のクラブは創立11年目（1991年5月23日創立）を向かえた若いクラブです（平均年令55.5才）。創立10周年の記念事業も終り、「同好会」的な活動を模索しています。会員有志によるコーラス部の発足が話題になり、声に自信のある4名が集まり「コーラス同好会」が生まれました。例会終了後30分程度の時間を割いて練習を積み重ね、昨年の忘年家族例会に初披露となりました。全会員拍手喝采で好評を得、益々やる気を持って練習に励んでいるようです。新年例会、檀原RCとの合同例会はもとより、本年度初めて試みる桜井RCとの合同例会にも、美しい歌声が聞けるものと会員一同期待しているところでもあります。



また昨年より「つり」の同好会も話題になり、つり自慢の会員数名が2ヶ月に一度程の割合で遠征しているようです。「つり」の方もいづれ同好会に発展し、活躍できるよう会員一同期待しているところでもあります。

各クラブとの情報交換を得られれば幸甚です。